

イネ科通信 21

カズノコグサ

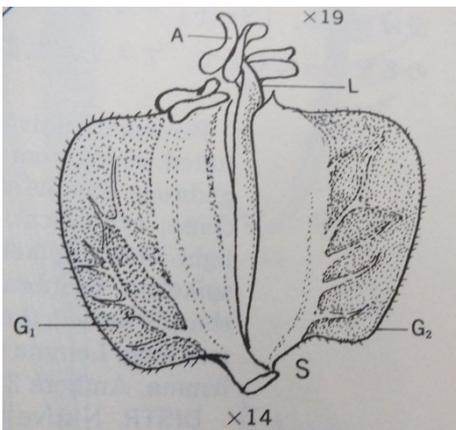
鵜殿観察会 2013/4/12



前回（2013/2/22）の鵜殿観察会では枯れたイネ科ばかりでした。今回はヨシ焼の後からヨシやオギの新芽が伸び、セイヨウカラシナの花が咲き春景色になっていました。

イネ科ではスズメテッポウ、カズノコグサやスズメノカタビラがみられました。右上写真はカズノコグサの花穂（かすい）が葉鞘の中に納まっている未熟な状態です。強風のため撮影が困難だったので持ち帰り、室内で撮りました。下の左端の写真から花穂（かすい）を順次拡大したのが右3枚の写真です。左端写真の左の花穂は一部葉鞘の中にとどまっていますが、右の花穂は完全に葉鞘から出ています（葉身の位置を見てください）。

写真右2枚からは独特な包穎（ほうえい）の形がみられます。これらは10倍のルーペで十分観察できます。



上の右端は穎花（穎果）ですが上手く撮影できていませんので左下へ日本イネ科植物図譜（平凡社・長田武正）のスケッチを引用させていただきました。G1は第1包穎、G2は第2包穎です。Lは護穎、Aは葯、Sは小穂です。（左図の×19は無視してください）

左のスケッチは開花した状態ですが、上右端の写真では未熟なので開花していない状態です。包穎は特異な形をしているのにご注目ください。また、カズノコグサの名前は、花穂を見ると容易に想像できます。カズノコグサの和名は、牧野富太郎博士が、いくつかの枝に着いた膨らんだ小穂が互いに密着して、全体として披針形の整った型になっている様子を数の子に見立てて名付けたそうです。